

4 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究では、理論研究と授業実践を行い、児童が互いに気付きの質を高め合う生活科学習指導の在り方について探ってきました。具体的な活動や体験を行う場面における気付きの交流を促す手立ての工夫を通して互いに気付きの質を高め合うことができるのかについて、その有効性を検証しました。

- 気付きの質の高まりを 5 段階にレベル分けし、各レベルに至ったとされる児童の言葉や気付きの質が高まるきっかけを表に整理したことで、児童の見取り（評価）の指針とすることができました。教師が対話により引き出したい児童の言動、交流させたい気付きを明確にすることに役立てることが出来たと考えます。
- 具体的な活動や体験を行う場面において、場の設定や気付きの可視化などの気付きの交流を促す手立てを工夫したことは、児童の交流を促し、互いに気付きの質を高め合うことに効果があることが明らかになりました。

(2) 今後の課題

授業実践を通して、次のような課題も見えてきました。

- 具体的な活動や体験中にもった気付きを授業の振り返りの時間にどの児童も確実に表現できてはいるとは限りませんでした。今後は、振り返り表現する活動における手立ての工夫について探っていきたいと考えます。
- 今回は大単元の前段となる 6 時間の小単元での授業実践を行いました。もっと長いスパンでも実践し、手立ての有効性を検証し探っていきたいと考えます。